

平成 30 年度（第 9 期）事業報告

自 平成 3 0（2018）年 4 月 1 日
至 平成 3 1（2019）年 3 月 3 1 日

目 次

1. 株式会社の現況に関する事項	
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 取り組んだ主な事業	1
(3) 対処すべき課題と今後の方向性	5
(4) 資金調達等の状況	5
(5) 設備投資の状況	5
(6) 主要な事業内容	5
(7) 主要な営業所	6
(8) 使用人の状況	6
2. 株式に関する事項	6
3. 役員に関する事項	6

1 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当事業年度における経営環境は、企業収益の改善が続いており、緩やかな景気回復の傾向がみられるものの、通商問題が世界経済に与える影響や、全国各地で発生した自然災害、本年10月に予定される消費増税の影響など、先行きはなお不透明な状況にあります。

道内経済においては、昨年9月の北海道胆振東部地震の発生により、生産活動や観光消費などに一時的な影響はあったものの、個人消費の持ち直しや雇用動向の改善が続いていることなどから、全体として緩やかに持ち直していますが、人手不足による人件費の増加や自然災害のリスクなど、今後の経済動向については、なお注視する必要があります。

このような状況の中、当社は、札幌駅前通地下広場(チ・カ・ホ)や札幌市北3条広場(アカプラ)の指定管理業務、チ・カ・ホの壁面を活用した広告事業、地域コミュニティづくりなど、これまで培ったノウハウを最大限に活かし、自主的に財源を創出してハードとソフト両面にわたって様々なエリアマネジメント活動を行ってまいりました。

チ・カ・ホにおいては、広場の貸出度合を示す稼働率は平均で約94%に上り、前年度に引き続き、高い稼働率を維持することが出来ました。

また、アカプラにおいては、道外クライアントの利用が増えたことにより収益が向上し、市民に親しまれている「道庁赤れんが庁舎」や「イチョウ並木」といった景観に配慮しつつ、市民や企業、行政の方々と共に、北海道の食や観光の促進、アートイベントやセールスプロモーションなど多数の催しを行い、都心部の貴重な広場としての活用を図ってまいりました。

これらのことから、当社の行った事業が、都心を訪れる市民や観光客の増加や大通地区と札幌駅前地区をはじめとする都心全体の回遊性の向上による賑わい創出に寄与したものと考えているところです。

その結果、今期の事業収益については、前述した高い広場稼働率と、安定した壁面広告事業により、純利益は2,594千円となり、8期連続の黒字となりました。

(2) 取り組んだ主な事業

① 関係各所との連携による「まちづくり」の取組

a. 賑わいの創出

地域の賑わい創出や活性化等を目的に、企業や町内会、行政等から構成されるまちづくり実行組織の「札幌駅前通地区活性化委員会」と連携して、特色あるイベントを年間通して実施し、地域のブランド力アップに努めました。

(SAPPORO FLOWER CARPET 2018、札幌駅南口広場エキヒロ Cafe、アカプラ会社対抗のど自慢大会、さっぽろ八月祭 2018、アカプライルミネーション 2018-2019、さっぽろユキテラス 2019 など)

また、地域のコミュニティ組織として活動している「札幌駅前通振興会」と協働で、「冬のまち歩きを楽しく」をコンセプトに、装飾したツリーを札幌駅前通沿道のビルや店舗の軒先などに飾り、クリスマスや季節の雰囲気を広げておもてなしをする「Happy Tree Street」を展開しました。

さらに、当エリアの更なる回遊性の向上を図るため、アカプラに隣接する日本生命札幌ビル・札幌三井 JP ビルディング・札幌フコク生命越山ビルディングの3館と連携して、各館の商業テナントを1回ずつ利用することで賞品が当たるスタンプラリー「アカプラリー」を昨年度に引き続き主催し、多くのオフィスワーカーにご参加いただきました。

b. 環境美化

札幌駅前通振興会や町内会・近隣企業等と連携し、札幌駅前通の清掃活動（ツキイチ・クリーン）等を行いました。また、札幌駅前通の放置自転車対策を兼ねた「フラワープランター」を設置しました。

c. 安心安全なまちづくり

昨年9月に発生した「北海道胆振東部地震」は、震源周辺を中心とした揺れに伴う直接的被害に加え、札幌を含む道内全域が停電したことにより、市民生活・企業活動に甚大な影響を与えました。当地区においては、チ・カ・ホが市の一時滞在施設に位置付けられたことから、5日間にわたり広場の一般利用を中止して当社も地震対応に当たりました。

関係機関との連携体制の構築や情報収集のあり方、設備や備蓄の問題、接続ビルとの情報共有など、様々な課題も浮き彫りになりましたが、今回の経験を生かして、当地区の帰宅困難者対策のガイドラインづくりを当社が事務局を担っている札幌駅前通地区防災協議会と連携しながら進めてまいります。

また、札幌中心部の公的な施設におけるいわゆる「ホームレス」の方々の滞在状況等について、施設管理者及び支援団体間で情報共有を行い、その後の支援につなげるため設立した「札幌中心部ホームレス対策施設連絡会」の事務局として、チ・カ・ホを含む各施設と支援団体との連絡・調整業務を行いました。

② 指定管理業務（「チ・カ・ホ」、「アカプラ」）を中心とする取組

札幌市及び関係機関と広場の運営・管理についての協議を行いながら、以下の事業を行い、都心の賑わいの創出等に努めました。

●札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」

○活用内容

- ・「都心の回遊性、活性化」の促進

- チカチカ☆パフォーマンススポット、kurache（クラシェ）、子ども向けイベント（Public “Play” ces Project）、Public Art Research Center〔PARC〕、チ・カ・ホ LIVE（クラシック・ジャズ）の開催、チ・カ・ホ MAP の発行など
- ・「都心ビジネスパーソンへの快適な日常」の提供
 - 接続空間を活用した休憩スペースの充実化、「Sapporo City Wi-Fi」の運用
- ・「さっぽろ・北海道の魅力発信」の推進
 - 道内観光・魅力発信 PR 展の実施（各振興局・観光協会などのサポート）、北海道イベントインフォメーションボードの設置・運用
- ・「季節等のイベント」の実施・協力
 - さっぽろ菊まつり、オータムスイーツガーデン SAPPORO、さっぽろアートステージ、さっぽろ雪まつり「ユキ・チカ in さっぽろ雪まつり」など
- 広場の貸出業務
 - 「交差点広場」や「憩いの空間」の貸出促進及び活用支援、
 - 情報提供機能の充実（ホームページでのイベント情報の掲出）
- 環境等の配慮
 - 案内所の設置（ビッグイシューさっぽろとの連携）、植栽の設置、
 - 周囲のデザインと調和した“デザインテーブル”（販売什器）の制作・貸出
- 運営・管理について
 - 「チ・カ・ホ」に適した展示・出店デザイン、ルール等の検討・指導、
 - 札幌駅前通地下広場運営協議会の開催

●札幌市北3条広場「アカブラ」

「道庁赤れんが庁舎」や「イチョウ並木」の景観に配慮し、地域資源を活用した文化の発信など、地上の賑わいの拠点としての活用を図りました。

- ・「SAPPORO FLOWER CARPET 2018」の開催（主催者事務局）
- ・「さっぽろ八月祭 2018」の開催（主催者事務局）
- ・「アカブライルミネーション 2018-2019」の実施（主催者事務局）
- ・「さっぽろユキテラス 2019」の開催（主催者事務局）
- ・札幌市北3条広場運営協議会の開催

③ エリアマネジメントの基盤を固める取組

・エリアマネジメント広告

チ・カ・ホの壁面を活用して企業等の広告を掲出し、賑わいの創出に努めるとともに、エリアマネジメント活動の貴重な財源として活用を図りました。

広告稼働率：短期枠（1週間単位）… 実績 98%（目標 85%）

長期枠（3ヶ月単位）… 実績 100%（目標 100%）

・ エリアマネジメントのあり方や広場の活用についての他都市との交流・研究

全国各地でエリアマネジメントを実践している団体が連携してその取組を推進するために共同で設立した「全国エリアマネジメントネットワーク」の幹事社として、他都市との緊密な情報交換や課題を解決する方法の検討、当社の取組の情報発信など、当地区の地域価値向上のための諸活動を推進しました。

・ 将来を見据えた指定管理以外の事業の検討

都心部に多様な人材や情報、資金を惹きつけ、エリアの空間や機能、活動が新規創業や既存ビジネスの活性化を支えるためには、「エリアの価値」を高めている戦略的な取組が必要とされます。

そのために当社は「世話役・つなぎ役」としての役割を担い、これまでの公共空間の管理に加え、民間と公共をつなぐ領域づくりのために、コーディネート業務を行い、戦略的なエリアマネジメントを実践していくための仕組みづくりを引き続き検討しました。

④ 地域資源を活用した文化の発信等の取組

・ 公共空間のあり方を考えるアート展示とワークショップの開催

主催事業として、Public Art Research Center [PARC] を開催しました。

・ 「全市的な季節のイベント」等の実施・協力

さっぽろ菊まつり、オータムスイーツガーデン SAPPORO、さっぽろアートステージ、さっぽろホワイトイルミネーションなどへの協力・支援を行いました。

・ 「テラス計画」の活用促進

札幌三井 JP ビルディング内にある眺望ギャラリー「テラス計画」において、アート作品の展示のほかにも様々なワークショップなどを開催し、多くのアーティスト、デザイナー、学生、ビジネスパーソンの参画により、眺望のみならず、人々が自由に交流し、札幌らしい生活・芸術文化の計画、提案が行われる『創造の場』として活用しました。

・ 「コバルドオリ」の活用促進

都心における新たな「通りの文化」を創出する実験の場所として平成 29 年 12 月からスタートした「コバルドオリ事業」において、地場の事業者や起業家によるこだわりの飲食店舗のほか、将来的に都心部で店舗を構えたいと考えている事業者に向けた期間限定のチャレンジショップを開設しました。

また、イベント等が実施できるコミュニティスペース「コバル計画」を開設し、「まちを面白くする」プレイヤー同士がつながりあう交流の場となりました。

⑤ 人材育成事業

近年、アートを用いたまちづくりや地域振興が活発化している中、その担い手不足が指摘されており、当社の主催事業として「アートマネジメント／まちづくり」をゼロから学べる入門講座「Think School（シンクスクール）」を昨年度に引き続き開校しました。

今年度は「企画コース」「制作コース」合わせて32名が受講し、1年間の講義修了時には受講生による卒業企画展をチ・カ・ホなどで開催しました。

(3) 対処すべき課題と今後の方向性

当社が目的とする「都心の賑わいづくり」、「文化の香りがする都心づくり」、「市民協働の推進」、「駅前通地区・札幌・北海道の魅力発信」を行うためには、チ・カ・ホ、アカプラを中心とする取組だけではなく、エリア一体となった対応が求められます。

このような観点から、指定管理施設の有効活用を図るとともに、地域全体のまちづくり課題を見据えて、地域の関係者から構成される「札幌駅前通地区活性化委員会」や「札幌駅前通振興会」等との連携を深め、目的の達成につながる地域イベントの実施や環境美化、安心安全なまちづくり活動に努めたいと考えています。

また、喫緊の課題として、昨年地震発生で浮き彫りとなった当エリアの防災対策について、災害時帰宅困難者対策ガイドラインの策定を札幌駅前通地区防災協議会とともに進めてまいります。

さらに、当地区の将来を見据えた地区計画の見直しの検討やまちづくりガイドラインの策定などを行い、サステイナブルでより魅力あふれるエリアづくりに取り組んでまいります。

当該事業の実施に際しては、会社の適切な運営、収益の安定化が求められることから、引き続き費用の省力化、業務効率の向上などに努めてまいりたいと考えています。

(4) 資金調達等の状況

該当事項はありません。

(5) 設備投資の状況

当期は、チ・カ・ホと接続するビルの新築工事のために設置された仮壁を活用して壁面広告を掲出する事業などに、合計2,219千円の設備投資を行いました。

(6) 主要な事業内容

- ・札幌駅前通地区でのまちづくり活動及び札幌都心部他地区におけるまちづくり活動との連携調整に関する業務
- ・札幌駅前通地下歩行空間（地下広場）及び札幌市北3条広場の管理運営の受託に関

する業務

- ・地域の活性化を図るための事業企画、立案、コンサルティング及びその受託に関する業務

(7) 主要な営業所

本社 札幌市中央区北3条西3丁目1番地 札幌駅前藤井ビル8F

(8) 使用人の状況

平成31年3月31日 現在

使用人	平均年齢	平均勤続年数
12人	42.2歳	6年0ヶ月

※上記は正社員のみ

2 株式に関する事項

- (1) 発行可能株式数 1,000株
- (2) 発行済株式の総数 198株
- (3) 当事業年度末の株主数 17名

3. 役員に関する事項

平成31年3月31日 現在

役職名	氏名	他の法人等の代表状況
代表取締役会長	中村 達也	株式会社敷島屋 代表取締役社長
代表取締役社長	白鳥 健志	(常勤)
取締役副社長	越山 友直	有限会社越山ビルディングズ 取締役会長
取締役	柴田 隆行	株式会社伊藤組 代表取締役副社長
取締役	石塚 雅明	株式会社石塚計画デザイン事務所 顧問
取締役	石水 創	石屋製菓株式会社 代表取締役社長
取締役	芳村 直孝	札幌駅前通まちづくり株式会社 統括マネージャー
監査役	郷 雄司	株式会社北洋銀行 執行役員公務金融部長
監査役	沼田 和之	株式会社北海道銀行 地域振興公務部長

注) 1 (代表取締役会長) 中村達也氏、(取締役) 越山友直氏、柴田隆行氏、石塚雅明氏、石水創氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2 (監査役) 郷雄司氏、沼田和之氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。